
プロジェクト 中小企業の会計に関する指針

項目 「中小企業の会計に関する指針」の改正について

本資料の目的

1. 日本税理士会連合会、日本公認会計士協会、日本商工会議所及び企業会計基準委員会（以下「4 団体」という。）は連名で「中小企業の会計に関する指針」（以下「中小会計指針」という。）を公表している。
2. 現在、本年度における中小会計指針の改正に向けた検討を行っており、2021 年 6 月 28 日に開催された第 35 回中小会計指針作成検討専門委員会（以下「専門委員会」という。）では、中小会計指針の改正案に関する審議が行われた。
3. 本資料は、専門委員会における中小会計指針の改正に関する検討状況をご説明することを目的としている。なお、今後、次の文書を公表する予定である。
 - (1) 改正「中小企業の会計に関する指針」の公表について（審議事項(6)-2）
 - (2) 「中小企業の会計に関する指針（令和 3 年（2021 年）X 月 X 日改正）」（本文）（審議事項(6)-3）
 - (3) 「中小企業の会計に関する指針」（新旧対照表）（審議事項(6)-4）
4. なお、中小会計指針の概要及び中小会計指針の改正にあたっての当委員会の手続は別紙に記載している。

改正中小会計指針の概要

（改正が予定されている内容）

5. 改正が予定されている内容は次のとおりである。
 - (1) 改元に伴い、本文中の和暦に西暦を併記するとともに、各計算書類の例示について元号を平成から令和に変更する。
 - (2) 会社計算規則の改正に伴う所要の修正を行う。
 - ① 2020 年（令和 2 年）8 月 12 日に公表された会社計算規則の改正に対応し、中小会計指針における各論項目の「個別注記表」の注記項目に「会計上の見積りに関する注記」及び「収益認識に関する注記」を追加した。
 - ② 2020 年（令和 2 年）11 月 27 日に公表された会社計算規則の改正により、

【関連項目】に記載の会社計算規則の号数を変更した。

(公開草案の作成及びパブリックコメントの募集の省略)

6. 本年度の改正は、改元に伴う修正及び会社計算規則の改正に伴う修正に留まることから、公開草案の作成及びパブリックコメントの募集は行わないこととしている。

(今回の改正で検討されていない事項)

7. 今回、次の事項の検討を行っていない。
- (1) 企業会計基準第 29 号「収益認識に関する会計基準」及び企業会計基準適用指針第 30 号「収益認識に関する会計基準の適用指針」（以下「収益認識会計基準等」という。）
- 中小会計指針における収益認識会計基準等に関連する各論項目である「収益・費用の計上」の見直しについては、収益認識会計基準等が上場企業等に適用された後に、その適用状況及び中小企業における収益認識の実態も踏まえ、収益認識会計基準の考え方を中小会計指針に取り入れるか否かを検討することとしている。また、収益認識会計基準の考え方を取り入れるかどうかを検討するに当たっては、注記についても併せて検討することとしている。
- (2) 企業会計基準第 30 号「時価の算定に関する会計基準」及び企業会計基準適用指針第 31 号「時価の算定に関する会計基準の適用指針」

今後のスケジュール

8. 本年度の中小会計指針の改正スケジュールは、以下を予定している。

2021 年 7 月 13 日 第 461 回企業会計基準委員会で、改正中小会計指針（最終成果物）の公表について審議

2021 年 8 月 3 日 中小会計指針検討委員会（親委員会）を開催し、改正中小会計指針の公表に関する審議・承認

親委員会での承認後速やかに 改正中小会計指針を公表

ディスカッション・ポイント

- ・ 今後の手続を経た上で、関係諸団体と連名で改正中小会計指針を公表することについて、ご了承をいただきたい。

以 上

(別紙)

中小会計指針の概要

(中小会計指針の制定経緯とこれまでの改正経緯)

1. 平成 17 年 8 月、関係 4 団体の連名で、「中小企業の会計に関する指針」を公表した。
2. これは、「中小企業の会計に関する研究会報告」(中小企業庁、平成 14 年 6 月)、「中小企業会計基準」(日本税理士会連合会、平成 14 年 12 月)、及び「中小企業の会計のあり方に関する研究報告」(日本公認会計士協会、平成 15 年 6 月)の 3 つの報告書を統合する形で誕生したものである。また、平成 17 年 7 月に公布された会社法で「会計参与制度」が導入されたことにも対応したものである。
3. 以後、当委員会が公表する会計基準の新設又は改正、関係法令の改正などに伴い、ほぼ毎年改正を行ってきている。
4. なお、中小会計指針を改正する手続きとしては、関係 4 団体及び学識経験者等から構成される「中小企業の会計に関する指針」作成検討専門委員会と親委員会に相当する「中小企業の会計に関する指針」作成検討委員会の審議を経ることとしている。具体的には、当該専門委員会での検討を経て公開草案を公表し、公開草案に寄せられたコメントを踏まえて更に当該専門委員会で検討を行ったうえで、検討委員会を招集して検討を行い、全会一致での了承を得て、改正した中小会計指針を公表している。

(中小会計指針の目的)

5. 中小企業が計算書類を作成するにあたり、拠ることが望ましい会計処理や注記等を示すものである。とりわけ、会社法上、会計参与が取締役と共同して計算書類を作成するにあたって拠ることが適当な会計のあり方を示すものである。このため、中小会計指針は一定の水準を保つものとされ、中小企業は中小会計指針により計算書類を作成することが推奨されている。

(中小会計指針の適用対象)

6. 中小会計指針の適用対象は、以下の会社を除く株式会社とされている。
 - 金融商品取引法の適用を受ける会社及びその子会社並びに関連会社
 - 会計監査人を設置している会社及びその子会社

中小会計指針の改正にあたっての当委員会における手続

7. 第303回企業会計基準委員会（平成27年1月9日開催）にて以下が確認されているため、今後も同様の手続によることが考えられる。
- (1) 中小会計指針は、金融商品取引法適用会社には適用されず、公益財団法人 財務会計基準機構の定款第52条第1項で定める「一般に公正妥当と認められる企業会計の基準及びその実務上の取扱いに関する指針」には該当しないことから、「企業会計基準及び修正国際基準の開発に係る適正手続に関する規則」で規定した適正手続の対象には当たらないと考えられる。
 - (2) しかし、「企業会計基準委員会」という名称を使用して公表するものであるため、適切なデュー・プロセスを図る観点から、以下の手続を取る。
 - ① 中小会計指針の改正にあたっての公開草案の公表に向けての手続としては、当委員会事務局での検討を踏まえて「中小企業の会計に関する指針」作成検討専門委員会（以下「作成検討専門委員会」という。）の審議に参加する。そして、作成検討専門委員会での検討を踏まえた公開草案を企業会計基準委員会に付議して審議を行い、了承を得る（中小会計指針の位置づけを踏まえ、議決は行わない）。なお、関係4団体すべての了承が得られた段階で公開草案が公表される。
 - ② 最終的な改正された中小会計指針の公表に向けての手続としては、当委員会事務局で公開草案に寄せられたコメントの分析及び検討を行ったうえで作成検討専門委員会の審議に参加し、作成検討専門委員会での検討を踏まえた中小会計指針の最終的な改正案を企業会計基準委員会に付議して審議を行い、了承を得る（中小会計指針の位置づけを踏まえ、議決は行わない）。その上で、「中小企業の会計に関する指針」作成検討委員会の審議に参加する。なお、当該検討委員会において全会一致で了承が得られた段階で改正された中小会計指針が公表される。
 - (3) なお、公開草案に寄せられたコメントについては、関係4団体のホームページで公開しているが、当該取扱いは今後も踏襲することとする。

以上